

## 第 68 回構造工学シンポジウム プログラム

本シンポジウムは、構造工学論文集 Vol.68A への掲載論文・報告・総説を中心としたシンポジウムを開催することによって、産・官・学、各界の研究者・技術者に学术交流・技術交流の場を提供し、構造工学の一層の発展を目的としたものです。土木部門と建築部門それぞれの一般講演のほか、特別講演および土木・建築合同のパネルディスカッションを実施します。

1. 主催 日本学術会議土木工学・建築学委員会
2. 共催 土木学会, 日本建築学会
3. 開催日 2022年4月16日(土)～17日(日)
4. 会場 オンライン開催
5. 参加費 無料, 参加自由
6. 開会式  
日時: 2021年4月16日(土) 15:00～15:10  
会場: オンライン開催  
挨拶: 米田雅子(日本学術会議第三部副部長/土木工学・建築学委員会, 東京工業大学)  
前川宏一(日本学術会議/土木工学・建築学委員会, 横浜国立大学)
7. 特別講演会  
日時: 2021年4月16日(土) 15:10～16:10  
会場: オンライン開催  
講師: 竹脇出(京都大学教授/前日本建築学会会長)  
題目: 「レジリエントな構造物の設計法」  
司会: 五十田博(日本建築学会構造工学論文集編集小委員会主査, 京都大学)
8. 土木・建築合同パネルディスカッション  
テーマ: 「レジリエンスな社会の実現に向けて  
ー頻発、激化、そして多様化する災害にいかに向かうかー」  
日時: 2021年4月16日(土) 16:10～18:00  
会場: オンライン開催  
主旨説明: 五十田博(前掲)  
(主旨)

21世紀に入り、2011年東日本大震災、2016年熊本地震を含む大地震、津波をはじめとする多くの大災害が発生した。地震災害だけではなく、豪雨・大型台風等による水害、台風・竜巻等による風害を含めた自然災害も頻発し、それによる被害も激化し多様化している。このような自然災害に対応すべく、防災のみならず減災・免災、自助・共助・公助、持続可能な社会などの概念も発展してきた。生態学の分野で粘り強さとしなやかさを意味する「レジリエンス」も重要なキーワードの1つであり、建築・土木構造物に対しては地震等による外力が作用した場合の抵抗力や性能低下からの復旧力、復旧時間の短縮等が議論されてきた。より大きな意味では、頻発、激化、そして多様化する災害、さらには近年の世界的な感染症蔓延等に対し、都市全体、行政、産業・ビジネス等の分野を包含した復旧力に関わる重要な考え方として注目されている。

第68回目となる今回は、「レジリエンスな社会の実現に向けてー頻発、激化、そして多様化する災害にいかに向かうかー」と題し、持続可能な社会を実現するためのレジリエントな都市の構築を目標とし、建築・土木分野を横断した議論を行う。最初に、レジリエントな構造物の設計法として、事業継続計画策定のための地震災害等に対する建物維持・回復性能評価指標の提案に向けた議論等を含め紹介する。その後のパネルディスカッションでは、建築側、土木側からのパネラ数名を加え、具体事例として、建築物、インフラの個別の対策、地域での取り組み、国際展開、都市全体での対応等を紹介していただき、議論を予定する。

パネリストおよび講演：

- ・ 防災リスクコミュニケーションと市民の課題解決  
ー 市民を対象にした共助・事前復興に関する防災教育ー

平田京子（日本女子大学）

- ・ 高レジリエンス構造システムの考え方

朝川剛（東京電機大学）

- ・ 地域防災・減災にむけた拠点形成と連携活動推進

飛田潤（名古屋大学）

- ・ 激甚災害に備える ー性能指標としてのライフサイクルリスク・レジリエンスの役割ー

秋山充良（早稲田大学）

- ・ 地域特性を踏まえた減災への取り組み

松村政秀（熊本大学）

司会：永野正行（日本建築学会構造工学論文集編集小委員会幹事，東京理科大学）

栗橋祐介（土木学会構造工学論文集編集小委員会幹事長，金沢大学）

9. 問い合わせ先（事務局）土木学会研究事業課 岡崎寛輝

(E-mail [okazaki@jsce.or.jp](mailto:okazaki@jsce.or.jp))

なお，本シンポジウムは土木学会 CPD プログラムに認定されています。

単位取得ご希望の方は，100 文字以上のレポートを参加聴講日中にご回答ください。

詳細は，参加申込時の自動送信メールにてご連絡致します。

(認定番号 4 月 16 日：JSCE22-0248，4 月 17 日：JSCE22-0249)



第 68 回構造工学シンポジウム（土木部門）プログラム

	第 1 会場	第 2 会場	第 3 会場
4 月 16 日 (土)	鋼構造・橋(1) 9:00~10:30 座長：田井政行 (琉球大学)	衝撃・衝突・爆発(1) 9:15~10:30 座長：小室雅人 (室蘭工業大学)	コンクリート構造・橋(1) 9:00~10:30 座長：岩波光保 (東京工業大学)
	鋼構造・橋(2) 10:45~12:15 座長：清川昇悟 (横河ブリッジホールディングス)	衝撃・衝突・爆発(2) 10:45~12:00 座長：別府 万寿博 (防衛大学校)	コンクリート構造・橋(2) 10:45~12:00 座長：岩城一郎 (日本大学)
	休憩 12:15~13:15		
	鋼構造・橋(3) 13:15~14:45 座長：小林裕介 (鉄道総合技術研究所)	衝撃・衝突・爆発(3) 13:15~14:30 座長：榎谷 浩 (金沢大学)	コンクリート構造・橋(3) 13:15~14:30 座長：林和彦 (香川高等専門学校)
	【第 1 会場】開会式 15:00~15:10		
	【第 1 会場】特別講演会 15:10~16:10		
	【第 1 会場】土木・建築合同パネルディスカッション 16:15~18:00		
4 月 17 日 (日)	構造安定・耐荷力・構造一般 (1) 9:00~10:30 座長：野阪克義 (立命館大学)	構造動力学・振動・風工学(1) 9:30~10:30 座長：八木知己 (京都大学)	合成・複合/木構造・橋(1) 9:45~10:30 座長：池田学 (鉄道総合技術研究所)
	構造安定・耐荷力・構造一般 (2) 10:45~12:15 座長：松村政秀 (熊本大学)	構造動力学・振動・風工学(2) 10:45~12:00 座長：宮森保紀 (北見工業大学)	合成・複合/木構造・橋(2) 10:45~11:45 座長：中村一史 (東京都立大学)
	休憩 12:15~13:15		
	鋼構造・橋(4) 13:15~14:30 座長：内田大介 (法政大学)	地震工学・建造物の耐震 13:15~14:45 座長：藤倉修一 (宇都宮大学)	設計工学・計算力学 13:15~14:15 座長：白戸真大 (国土技術政策総合研究所)

講演 1 件当たり，発表 10 分，質疑 5 分の計 15 分

次頁以降で，○は講演予定者を，\*は報告を，\*\*は総説を示す。

**第1日：4月16日（土）**

**第1会場**

**9:00～10:30 鋼構造・橋（1）**

**座長：田井政行（琉球大学）**

(5-1) 高力ボルト継手のリラクゼーション試験における試験期間の考察

○南邦明

(5-2) \*エッチングプライマー処理鋼板を動力工具により素地調整した接合面と無機ジンクリッチペイント面の異種接合面を有する高力ボルト摩擦接合継手のすべり耐力試験

○酒井武志, 北根安雄, 中嶋浩之, 三ツ木幸子

(5-3) 太径高力ボルト摩擦接合継手のすべり係数に対する添接板厚・ボルトピッチの影響

○網谷岳夫, 内田大介, 平野雄大, 関根英人

(5-4) 拡大孔・長孔を有する高力ボルト摩擦接合継手のすべり耐力低減に関する解析的検討

○堀井いずみ, 藤原眞幸, 小西日出幸, 亀崎誠志, 豊田雄介, 山口隆司

(5-5) ハック高力ワンスайдボルトを用いた摩擦接合継手のすべりおよびすべり後挙動に関する実験的研究

○藤原眞幸, 山口隆司, 原田篤史, 吉岡正澄, 中野眞次, 吉見正頼

(5-6) 片面施工摩擦支圧併用継手の荷重伝達メカニズムに関する解析的検討

○中本勇, 山口隆司, 彭瑋

**10:45～12:15 鋼構造・橋（2）**

**座長：清川昇悟（横浜ブリッジホールディングス）**

(5-7) 高力ボルト摩擦接合継手の締付けボルト軸力がすべり後挙動における摩擦荷重伝達に及ぼす影響

○高井俊和

(5-8) 高力ボルト摩擦接合鋼桁連結部の純曲げ載荷実験による孔変形を指標とした支圧限界状態に関する研究

○佐倉亮, 森山仁志, 山口隆司, 青木康素

(5-9) 橋梁形式・ボルト種類・接合面処理が異なる実橋高力ボルトの残存軸力評価に関する基礎的研究

○飯田哲也, 杉浦邦征, 山口隆司, 北根安雄, 織田博孝

(5-10) 両面腐食減肉した連結板を有する高力ボルト摩擦接合継手のすべり耐力特性に関する実験的検証

下里哲弘, ○山下修平

(5-11) 接合面に不陸修正材用接着剤を塗布した高力ボルト接合継手のすべり挙動およびすべり耐力に関する基礎的研究

○福辻菜絵, 藤本高志, 山口隆司, 青木康素, 赤松伸祐, 堀井久一, 谷口祥基

(5-12) 圧縮側の添接板を省略した鋼製山留め材接合部の力学的挙動

○白井悠吾, 杉本悠真, 谷口知博, 山本颯太, 松岡功治, 山口隆司

**13:15～14:45 鋼構造・橋（3）**

**座長：小林裕介（鉄道総合技術研究所）**

(5-13) 負曲げ作用に対する鋳鉄床版のデッキ添接構造に関する検討

○山下良, 松井駿, 山口隆司, 飛永浩伸, 白井悠吾

(5-14) 母板に長孔を有する高力ボルト摩擦接合継手を用いた鋳鉄床版モジュール主桁間のすべり挙動

○白井悠吾, 林巖, 松井駿, 山口隆司, 山下良, 飛永浩伸

(5-15) 横荷重を受ける鋼I 桁外桁端部の耐荷性能に関する実験的研究

○橋才造, 森山仁志, 松村政秀

(5-16) \*Cases study of temperature distribution on steel bridges under solar radiation

○Ruobing Sun, Yasuo Suzuki, Tomonori Tomiyama, Yasuo Kitane, Wint Thandar, Kunitomo Sugiura

(5-17) 塗膜剥離のための高周波誘導加熱が鋼構造部材の変形および残留応力に及ぼす影響

○中原智法, 桐畑光生, 廣畑幹人, 二上稜太, 古市亨

(5-18) PE 被覆ケーブル内部の腐食環境評価に関する解析的検討

○坂本佳也, 玉越隆史, 上仙靖

**第1日：4月16日（土）**

**第2会場**

**9:15～10:30 衝撃・衝突・爆発（1）**

**座長：小室雅人（室蘭工業大学）**

(8-1) 低速衝突を受ける鋼製片持ち梁の弾性応答の相似に関する一考察

○手嶋良祐，別府万寿博，市野宏嘉

(8-2) 既設砂防堰堤に付与した張り出しタイプ流木捕捉工の荷重計測実験

○渡邊大貴，堀口俊行

(8-3) 鋼製堰堤の全体破壊に及ぼす接合部の押し込み変形の影響

○嶋川理，堀口俊行，別府万寿博，香月智

(8-4) 平坦状の先端を有する飛来物衝突を受ける鋼板の貫通評価モデルに関する検討

瀨田匠李，○別府万寿博，市野宏嘉，堤成一郎

(8-5) 飛来物衝突を受ける鋼繊維補強無孔性コンクリートパネルの局部破壊抑制効果に関する実験的研究

○別府万寿博，河野克哉，岸良竜，溝口愛実，森広毅，市野宏嘉

**10:45～12:00 衝撃・衝突・爆発（2）**

**座長：別府万寿博（防衛大学校）**

(8-6) 平面要素集合体の重錘モデルを用いた実物大落石防護網のシミュレーション

○小泉香那子，堀口俊行，高橋利延，橋口寛史

(8-7) 阻止面にワイヤネットを用いた支柱強化型落石防護柵の捕捉性能に関する実規模実験と数値解析

○石井太一，西田陽一，榎谷浩，栗橋祐介

(8-8) 実規模擁壁に貫通埋設させた防護柵支柱に関する曲げと共にせん断が卓越する場合の静的及び衝撃荷重実験

○林茂樹，小室雅人，岸徳光，瓦井智貴，近藤里史

(8-9) 落石防護擁壁上に設置された貫通型落石防護柵支柱に関する衝撃応答解析

○小室雅人，瓦井智貴，岸徳光，林茂樹，竹内観月

(8-10) 土堤材料や重錘質量を変化させた小型落石防護土堤への重錘衝突実験

○杉山直優，前田健一，牛渡裕二，鈴木健太郎，今野久志，内藤直人

**13:15～14:30 衝撃・衝突・爆発（3）**

**座長：榎谷浩（金沢大学）**

(8-11) 敷砂緩衝層の落石エネルギー吸収効果の評価を目的とした実規模落体衝突実験および二次元DEM解析

○磯合凌弥，前田健一，杉山直優，菅原正則，今野久志，内藤直人

(8-12) 緩衝ゴムを設置したRC梁の落下高さ一定繰り返し衝撃荷重実験

○瓦井智貴，小室雅人，岸徳光，三上浩，鈴木健太郎

(8-13) 設置する緩衝ゴム厚を変化させたシート破断で終局に至るAFRPシート接着曲げ補強RC梁の重錘落下衝撃実験

○鈴木健太郎，小室雅人，瓦井智貴，岸徳光，三上浩

(8-14) 近接爆発を受けるアルミハニカム複合パネルの緩衝性能に関する基礎的研究

○別府万寿博，市野宏嘉，相澤武揚

(8-15) 地中建造物の耐爆緩衝層内EPSの防護板が緩衝効果に及ぼす影響

○市野宏嘉，別府万寿博，東原健一，原口望，大城戸秀人

第1日：4月16日（土）

第3会場

9:00~10:30 コンクリート構造・橋（1）

座長：岩波光保（東京工業大学）

(6-1) 光ファイバセンサを用いた RC 梁試験体のひずみ分布計測およびひび割れ検知に関する基礎的研究

○森近翔伍， 関屋英彦， 栗原哲彦， 吉田郁政， 中島淳太， 岩城英朗

(6-2) \*衝撃加振による合成鉄桁橋コンクリート床版のたわみ分布評価に関する研究

○山口啓， 栗橋祐介， 榎谷浩， 横山広， 黒崎智治

(6-3) 小型 FWD 試験で得られた応答加速度を用いた床版の劣化判定手法の検討

○千葉陽子， 大西弘志， 岩崎正二， 木村如水， 佐々木太一

(6-4) 深層学習による電磁波レーダを用いた実道路橋床版の土砂化範囲の推定手法に関する検証

○北慎一郎， 櫻井信彰， 櫻井彰人， 飯土井剛， 岩城一郎

(6-5) ニューラルネットワークを用いた打音スペクトルの分析による鉄筋腐食ひび割れ判定手法に関する基礎的研究

○福井智大， 黒田一郎

(6-6) ラスター（格子状）スキャン機能を有するレーザー打音検査装置を用いたトンネル覆工コンクリートの診断支援技術の高度化に関する研究

○戸本悟史， 長谷川登， 岡田大， 近藤修司， 北村俊幸， 三上勝大， 錦野将元， 中村光

10:45~12:00 コンクリート構造・橋（2）

座長：岩城一郎（日本大学）

(6-7) 数値解析による杭基礎フーチングのせん断破壊挙動の評価

○中山岳彦， 斉藤成彦， 佐藤賢之介

(6-8) プレストレストコンクリートラーメン橋りょうの長期変形に関する解析的検討

○荒木一徳， 渡辺健， 石田哲也

(6-9) 縁端距離と補強鉄筋量が鋼棒ストッパー埋込み部の損傷メカニズムに及ぼす影響

○田畑勝幸， 轟俊太郎， 室内悠吾， 田所敏弥

(6-10) プレキャスト床版に突起型継手を設けた取替 RC 床版間詰部の開閉幅が耐疲労性に及ぼす影響

○小野晃良， 阿部忠， 水口和彦， 川井豊

(6-11) Analysis of stepwise construction of durable RC deck slabs on multiple span steel box girder bridge for transverse cracking mitigation

○Thanh Ngoc Phan , Akira Hosoda

13:15~14:30 コンクリート構造・橋（3）

座長：林和彦（香川高等専門学校）

(6-12) 圧縮応力の繰返し付与を受けたコンクリート部材の塩分浸透特性

○齊藤準平

(6-13) 圧縮鉄筋が腐食した RC はりの曲げ性能に関する検討

○桑野仁成， 近藤拓也， 横井克則

(6-14) 水の浸入に起因した耐疲労性の低下を抑制する RC 床版断面に関する実験的検討

大内凌輔， 〇子田康弘

(6-15) 実橋床版から切出した鋼板接着補強 RC 梁の樹脂再注入による補修効果と終局耐力

○黒柳拓海， 東山浩士， 森本祥平， 廣重幸， 吉田彰男

(6-16) 令和2年7月豪雨で被災した PCT 桁橋の流出原因と対策の検討

○加藤真吾， 渡辺浩， 下妻達也

第2日：4月17日（日）

第1会場

9:00~10:30 構造安定・耐荷力・構造一般（1）

座長：野阪克義（立命館大学）

(1-1) 鋼橋のシステムリダンダンシーの評価方法と Load rating におけるシステム係数の提案

○奥井義昭, 傳田諒, 熊木和輝, 佐久間智

(1-2) \*経年溝形鋼の残留応力とレーシングバーが消失した組立柱の圧縮強度

○中來田宰, 三好崇夫, 岩坪要, 高井俊和, 玉田和也

(1-3) 均一深さの局部欠損を有するトラス橋圧縮部材の残存耐荷力に関する簡易推定法の検討

○黄子平, 村越潤, 野上邦榮, 岸祐介

(1-4) 接着剤と高力ボルトの併用による当て板補修鋼部材の荷重伝達評価

○石川敏之, 堀井久一

(1-5) TRS を用いたアングル補強による自由突出板の耐荷力向上法

○根岸伸, 石川敏之

(1-6) 桁端部に腐食損傷を有する鋼桁橋構成部材の終局時における荷重分担に関する解析的検討

○大浦涼雅, 有村健太郎, 山口隆司

10:45~12:15 構造安定・耐荷力・構造一般（2）

座長：松村政秀（熊本大学）

(1-7) \*ウェブに疲労き裂を有し曲げせん断負荷を受ける鋼I 桁の残存耐荷力に関する解析的研究

作田彩花, ○橋本国太郎

(1-8) 繰り返し荷重を受ける鋼トラス橋のブレース材の終局挙動に関する実験および再現解析

○嶋口儀之, 山田忠信, 野中哲也, 馬越一也, 鈴木森晶

(1-9) 既設上路式鋼アーチ橋のブレース材の終局強度およびガセットプレート補強方法に関する検討

○山田忠信, 野中哲也, 馬越一也, 吉山純平, 鈴木森晶, 嶋口儀之

(1-10) 引張を受ける断面欠損鋼部材の補修設計に対する一考察

石川敏之, ○竹内太一

(1-11) 軸力を受ける片面添接補修された断面欠損部材の応力推定

○平井大稀, 石川敏之

(1-12) 張弦構造を利用したアルミニウム合金桁の材料コスト最小化の試み

○水野翔太, 近広雄希, 小山茂

13:15~14:30 鋼構造・橋（4）

座長：内田大介（法政大学）

(5-19) 疲労き裂の発生・進展による無荷重時のひずみ変化の評価

石川敏之, ○松本直樹

(5-20) 輪重の繰返しを受ける伸縮装置の疲労照査について

○山田健太郎

(5-21) 小径高力ボルトの追加による当て板補修されたストップホールの応力集中の低減効果

○玉利仁, 石川敏之, 清川昇悟, 中辻亘

(5-22) コーナープレート切欠き部の疲労耐久性と ICR 処理による延命効果

○清水優, 館石和雄, Shinta Ayuningtyas, 判治剛, 高田佳彦, 熊澤美早, 山口樹, 岡本亮二, 西芝貴光

(5-23) 静的荷重作用下で HFMI 処理された面外ガセット溶接継手の残留応力と疲労強度

判治剛, ○加納俊, 館石和雄, 清水優

第2日：4月17日（日）

第2会場

9:30~10:30 構造力学・振動・風工学（1）

座長：八木知己（京都大学）

(4-1) 時刻歴風応答解析による房総半島台風時の鉄塔倒壊メカニズムの検討

○早田直広, 清水幹夫, 山崎智之, 大園智章

(4-2) 強風時の箱桁橋梁部上の各種車両に作用する空気力に関する研究

○山口拓巳, 金惠英, 木村吉郎, 勝地弘, 藤野陽三

(4-3) 加速度応答計測と非線形履歴特性モデルに基づく変位応答推定

○石原佳奈, 楊曜華, 長山智則, 中村俊敬, 蘇迪

(4-4) 確率的部分空間法による固有振動数推定精度向上のための応答データ処理手法の基礎的検討

○下妻達也, 岡林隆敏, 西川貴文, 中村聖三, 渡辺浩

10:45~12:00 構造力学・振動・風工学（2）

座長：宮森保紀（北見工業大学）

(4-5) 移動センシングを用いたシステム同定におけるパラメータ推定精度の数値的検討

○秦涼太, 岡田幸彦, 山本亨輔

(4-6) 逐次フーリエ変換とその応用

○小塩達也

(4-7) 動画像変位量による軸重量推定を活用した橋梁異常検知に関する研究

○齊藤隆仁, 池田大造, 横山拓海, 金哲佑

(4-8) たわみ影響線の変化に着目したBWIMによる橋梁の異常検知の可能性検討

○横山拓海, 長谷川聡一朗, 金哲佑, 斎藤隆仁, 池田大造

(4-9) 計測区間への進入前の応答を考慮した Bridge Weigh-in-Motion

○丸山晃平, 吉田郁政, 関屋英彦, 田尻丈晴

13:15~14:45 地震工学・構造物の耐震

座長：藤倉修一（宇都宮大学）

(3-1) 横ずれ断層直上に位置する鉄道高架橋の地震時挙動に関する一考察

○小野寺周, 坂井公俊, 豊岡亮洋

(3-2) 材料特性と養生条件を考慮した橋脚の地震応答不確定性の数値的検討

○中村俊敬, 蘇迪, 長山智則

(3-3) \*実物超高減衰ゴム支承の曲げせん断変形に起因した取付ボルトの引張挙動

○目崎裕太, 木下幸治

(3-4) 超過外力に対する免震支承のハードニング防止を目的とした振動制御に関する一考察

豊田英夫, 四井早紀, 野村泰稔, ○伊津野和行

(3-5) 大規模地震発生後の復旧判断のための土木構造物上の付帯設備の残存性能評価

○坂井公俊, 豊岡亮洋, 木野淳一, 國井道浩

(3-6) Numerical simulation of brick masonry piers retrofitted with prestressed PC bars with appropriate edge distance

○Khaled Syfullah, Akira Hosoda, Hamed Salem, Sakiko Takahashi, Naomi Sasaki

第2日：4月17日（日）

第3会場

9:45～10:30 合成・複合／木構造・橋

座長：池田学（鉄道総合技術研究所）

(7-1) \*スタッド配置したI形鋼を芯材とした複合構造橋脚の交番載荷実験

○宇野州彦, 池野勝哉, 藤倉修一, 篠田佳男

(7-2) \*ポリマーセメントモルタル巻き立て補強工法による軸方向鉄筋径の小さな橋脚の補強効果に関する基礎的研究

○邵培倫, 渡邊学歩, 幸左賢二

(7-3) 洋上風力発電設備基礎における海中グラウト接合部の安全性評価

○勝山真規, 菅沼久忠, 吉岡健, 三好俊康

10:45～11:45 合成・複合／木構造・橋

座長：中村一史（東京都立大学）

(7-4) 軽量コンクリート2種を用いたプレキャストPC床版における高強度スタッドのせん断耐力および疲労強度

○今川雄亮, 小林崇, 尾籠秀樹, 大山理

(7-5) 薄層モルタル厚さおよびモルタル強度が頭付きスタッドのせん断耐力に及ぼす影響に関する実験的研究

○浅野貴弘, 浅野文佳, 松本崇志, 石田健人, 山口隆司

(7-6) 中性子線の遮蔽材料が散乱型RI測定装置の検出特性に及ぼす影響に関する実験的検討

○神頭峰磯, 瀬古繁喜, 池永太一

(7-7) GFRP部材の引張および圧縮強度評価のための実験的研究

○橋本国太郎, 二見悠太郎, 岡井大樹, 日比英輝, 池田哲雄

13:15～14:15 設計工学・計算力学

座長：白戸真大（国土技術政策総合研究所）

(2-1) 点検による腐食ひび割れ幅を用いた既設RC構造物の限界状態確率の評価

○鈴木修一, 黒木亮磨, 吉田郁政

(2-2) 軌道変位の不確実性を考慮した鉄道橋りょうの列車通過時動的応答

○徳永宗正, 松岡弘大, 池田学

(2-3) ソイルセメント複合杭の鉛直支持特性に関する研究

○古賀翔平, 渡邊康司, 山本忠久

(2-4) \*橋梁構造周面の水面形および浸水率に基づく抗力係数に関する研究

○今田吉貴, 渡邊学歩

## シンポジウム会場

- ・第 68 回構造工学シンポジウムは、オンラインで開催します。
- ・シンポジウム参加希望の方には、事前に申込して頂いた上で、事務局より URL をメールにてご連絡致します。
- ・事前参加申込みは、準備ができ次第、下記の構造工学論文集編集委員会のウェブサイトにてご案内致します。

(<http://www.jsce.or.jp/committee/struct/journal/>)